

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 「基礎演習」の効果的な運用を行うため、その担当者を対象とするFD研修会を実施する。	→「基礎演習」担当者全員を対象としたFD研修会の実施の有無。	C
2. 初年次教育プログラムを2011年度に策定し、2012年度から実施する。	→初年次教育プログラムの策定の有無。	D
3. 入学時の教務オリエンテーションに加えて、基礎演習ごとに学科選択に特化したガイダンスを実施する。	→学科選択に関する特別ガイダンスの実施の有無。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.1.1	(方針) 十分な明示はなされていない。 (現状説明) 上記の評価項目に即した形での十分な明示はなされていない。
☆ 小項目6.1.2	(現状説明) スタディ・インフォメーション（授業科目履修心得）に明示している。
☆ 小項目6.1.3	(現状説明) 教育目標、教育課程の編成・実施方針をスタディ・インフォメーションに記載し、構成員に周知している。また、ホームページに教育目標を記載し、社会に公表している。
☆ 小項目6.1.4	(現状説明) 文部科学省に新学科設置の届出を行い、2009年度より新学科を開設したため、完成年度終了まではカリキュラムの改正を実施できないが、年次履行状況報告において、前年度からの担当者の異動情報等について報告を行っている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



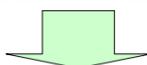
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○「目標・指標」1と3は、6.3「教育方法」に該当するのが適切でしょう。また、同2は6.2「教育内容」です。評価項目6.1は、教育目標等を定めて学内外に公表しているか、公表の仕方は適切か等を問うものです。

【学内委員】

○「基礎演習」をも含めた基礎教育に力を注いでいることが看取されます。しかし、それは学部の教育目標達成のための方策です。したがって、それは、つねに学部の教育目標や学位授与方針との関連の下で考えられなければなりません。このことを構成員に意識させる必要があるでしょう。

○初年度の学生教育は、今後の勉学に強い影響受けると思われます。目標・指標を実行する必要があります。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ (小項目6.1.2) ヒューマン・エコロジーを視座として、政治学、経済学、法学、経営学、社会学、工学などの既存の学問分野で蓄積された研究成果を学際的に総合しながら、課題解決の道を探ることを教育課程の編成・実施方針としている。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.1.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.1.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.1.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.1.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの授業科目開設数
6.1.0.S5	必修・選択ごとの開設授業科目数
6.1.0.S6	系列別卒業必要単位数

<個別的な指標>
